

COVID-19 流行によって在宅医療希望者が増加した ～入院中の面会制限の運用改善が必要～

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が、医療サービスの利用に大きな変化をもたらしていることが、世界的にも明らかになっています。とりわけ、COVID-19 感染者の入院対応が必要となり、各医療機関で入院対応できるベッド数が制限された結果、在宅医療（訪問診療）を希望する患者が増えていると考えられています。しかし、今までの研究は、入院医療や救急医療の利用に関する調査が多く、在宅医療（訪問診療）の利用に関する調査は限られており、COVID-19 の流行前と比べた在宅医療（訪問診療）の利用状況の変化やその理由についての調査は行われていませんでした。

本研究では、COVID-19 の感染拡大が続く 2021 年 8 月に、訪問診療を行っている医療機関を対象として、COVID-19 の流行前と比べた在宅医療（訪問診療）の利用状況の変化や考えられる理由を初めて調査しました。その結果、COVID-19 の流行前と比べて「自宅で最期を迎えたいと考える患者が増えた」「新たに在宅医療（訪問診療）を希望する患者が増えた」ことが明らかになりました。また、訪問診療の利用の変化の理由として、最も多く考えられるのは「入院中の面会制限」ということが分かりました。このような結果は、地域の人口や診療所・クリニックの医師数による違いが見られなかったことから、わが国における一般的な傾向と考えられます。

これらの結果を踏まえ、在宅医療（訪問診療）を希望する患者に対応している在宅医療従事者の支援や、入院中の面会制限の運用改善を検討することが必要と考えられます。

研究代表者

筑波大学 医学医療系

濱野 淳 講師

研究の背景

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の「第5波」（2021年7月～9月）では、それまでの状況を大きく上回る感染爆発となりました。これにより、感染者を受け入れる病床を確保するために、一般入院の病床数が減ったり、入院中の面会が制限され、以前は入院治療を受けられていた慢性疾患を抱える人が、在宅で療養することも多くなっていると言われていました。しかし、在宅医療（訪問診療）を希望する患者数の実態や、その変化の理由については、明らかになっていませんでした。

そこで本研究では、2021年8月に、国内で訪問診療を行っている医療機関の医師を対象に、COVID-19の流行前と比べた在宅医療（訪問診療）の利用状況の変化の実態や、考えられる理由などを調査しました。

研究内容と成果

本研究では、訪問診療を行っている国内37施設の責任医師（院長や管理者等）を対象に、COVID-19の流行前と比べた依頼される在宅患者の数や、病状、そして、患者・家族が在宅医療（訪問診療）を希望する理由などについて、2021年8月に無記名のwebアンケート調査を実施しました。なお、この時期は、21都道府県で緊急事態宣言が発令されていました。

33施設からの回答のうち、未入力データがあった2施設を除いた31施設のデータを解析しました。そのうち14施設は人口10万人未満の地域にあり、9施設では医師1人体制で訪問診療を担当していました。

解析結果から、COVID-19の流行前と比べて「自宅で最期を迎える患者が増えた（74.2%）」、「新たに在宅医療（訪問診療）を希望する患者が増えた（71.0%）」という傾向が明らかになりました。また、その理由として、回答者の93.5%が「入院中の面会制限があるため、多くの患者、家族が在宅医療（訪問診療）を希望している」と考えていることが分かりました（表1）。

このような結果は、地域の人口や診療所・クリニックの医師数による違いが見られなかったことから、わが国における一般的な傾向と考えられます。従って、COVID-19の流行前と比べて増えている、在宅医療（訪問診療）を希望する患者に対応している在宅医療従事者の支援や、入院中の面会制限の運用改善の検討が必要であることが示唆されます。

今後の展開

本研究は、COVID-19の流行前と比べた在宅医療（訪問診療）の利用状況の変化の実態や考えられる理由について分析した初めての調査です。本研究結果が、COVID-19の感染拡大において、患者、家族に適切な医療サービスを提供するために活用されていくことが期待されます。

参考図

表1 COVID-19の流行前と比べた在宅医療（訪問診療）の利用状況の変化の実態と考えられる理由

| | 全体 (n=31) | | 人口 | | | | 施設の医師数 | | | | | |
|-----------------------------------------|-----------|------|---------------|------|---------------|------|----------|---|-------------|----|------|-------|
| | そう思う | % | 10万人未満 (n=14) | % | 10万人以上 (n=17) | p | 1名 (n=9) | % | 2名以上 (n=22) | % | p | |
| COVID-19の流行前と比べて | | | | | | | | | | | | |
| 新たに在宅医療（訪問診療）を希望する患者が増えた | 22 | 71.0 | 10 | 71.4 | 12 | 70.6 | 0.959 | 6 | 66.7 | 16 | 72.7 | 0.736 |
| 余命が短い患者が在宅医療（訪問診療）を希望することが増えた | 12 | 38.7 | 4 | 28.6 | 8 | 47.1 | 0.293 | 3 | 33.3 | 9 | 40.9 | 0.694 |
| 自宅で最期を迎える患者が増えた | 23 | 74.2 | 10 | 71.4 | 13 | 76.5 | 0.750 | 6 | 66.7 | 17 | 77.3 | 0.540 |
| 多くの患者、家族が | | | | | | | | | | | | |
| 病院の医師、看護師に勧められて在宅医療（訪問診療）を希望した | 17 | 54.8 | 9 | 64.3 | 8 | 47.1 | 0.337 | 4 | 44.4 | 13 | 59.1 | 0.457 |
| 病院内でCOVID-19に感染することを心配して在宅医療（訪問診療）を希望した | 13 | 41.9 | 5 | 35.7 | 8 | 47.1 | 0.717 | 4 | 44.4 | 9 | 40.9 | 0.856 |
| 入院中の面会制限があるため在宅医療（訪問診療）を希望した | 29 | 93.5 | 13 | 92.9 | 16 | 94.1 | 0.887 | 8 | 88.9 | 21 | 95.5 | 0.499 |

研究資金

本研究は、日本学術振興会 科学研究費の一環として実施されました。

掲載論文

- 【題名】 Changes in home visit utilization during the COVID-19 pandemic: A multicenter cross-sectional web-based survey
(COVID-19 流行による在宅医療の利用の変化について)
- 【著者名】 Jun Hamano, Hirokazu Tachikawa, Sho Takahashi, Saori Ekoyama, Hiroka Nagaoka, Sachiko Ozone, Shoichi Masumoto, Takahiro Hosoi, Tetsuaki Arai
- 【掲載誌】 BMC Research Notes
- 【掲載日】 2022年7月7日
- 【DOI】 10.1186/s13104-022-06128-7

問い合わせ先

【研究に関すること】

濱野 淳 (はまの じゅん)

筑波大学 医学医療系 講師

URL: <https://trios.tsukuba.ac.jp/ja/researchers/3463>

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp